

珍奇樹イヌマキ400年の記録

珍奇樹誕生の秘密を図解

400年前：イヌマキ樹木誕生（推定樹齢）
住 民 票：高知城本丸東南角の下段、四差路

No1



見取り図

300年前・分岐した幹の1本が折れ空洞の原因に

地上5mで
風の被害かも

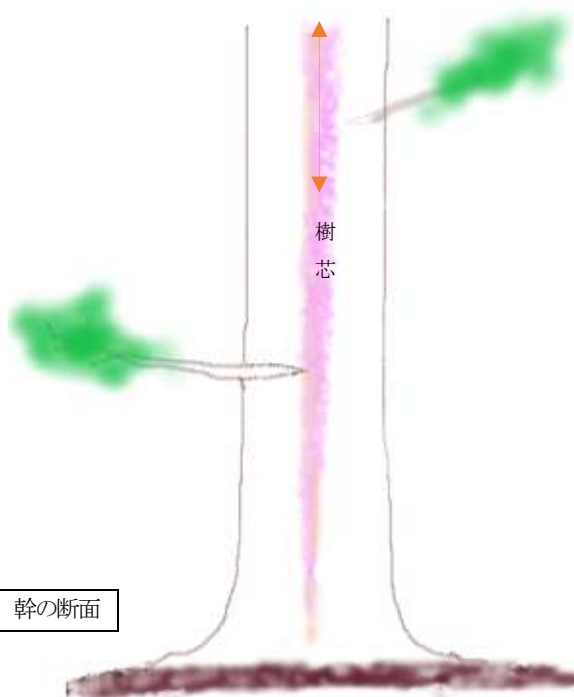
No2



見取り図

200年前、折れた部位から幹中心部に腐れ拡大

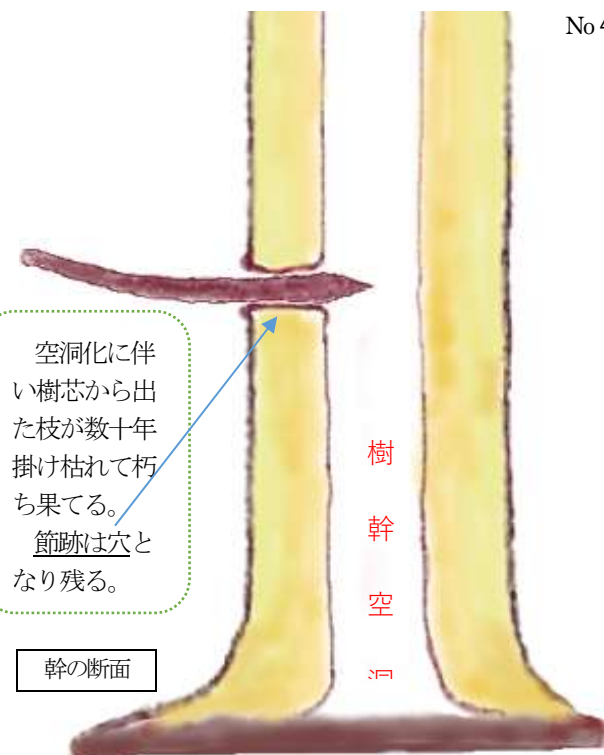
No3



幹の断面

150年前、幹の空洞拡大で力枝は死節化後風化

No4

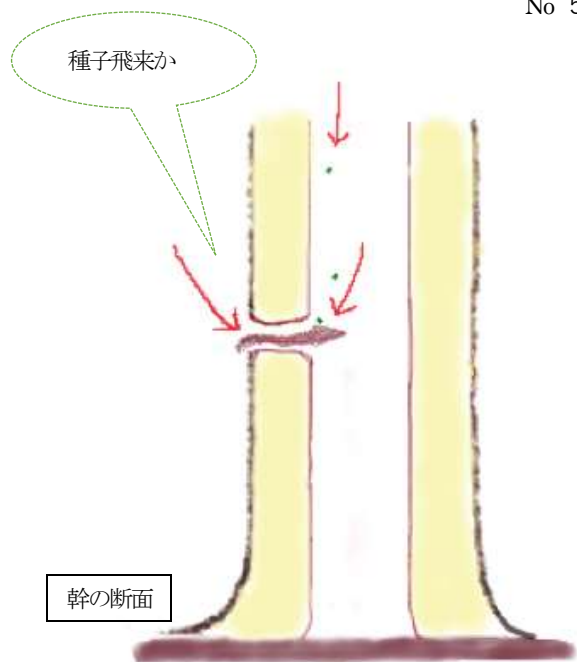


空洞化に伴い樹芯から出た枝が数十年掛け枯れて朽ち果てる。節跡は穴となり残る。

幹の断面

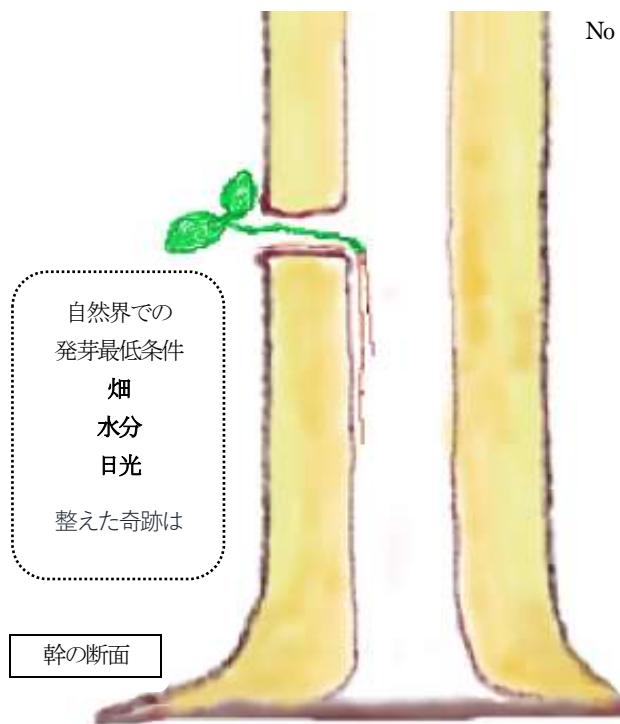
100 年前の珍事件
イヌマキ節穴にクスノキの種子が偶然侵入

No 5



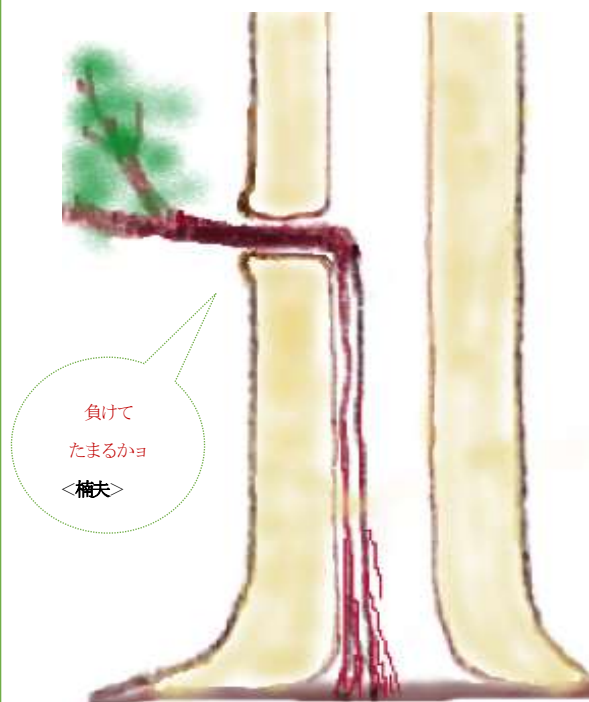
100 年前、偶然侵入したクスノキ種子が発芽・生育

No 6



80 年前、クスノキ成木は・枝に変身

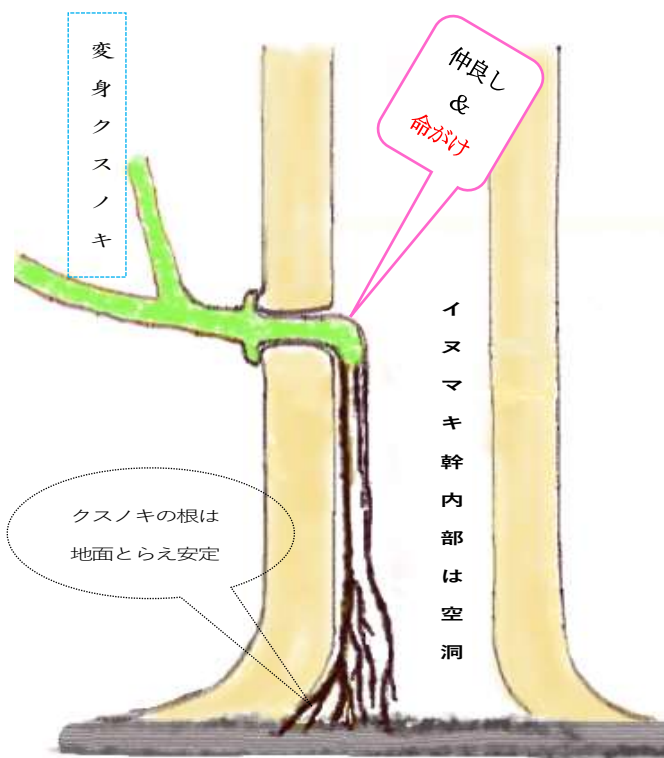
No 7



クスノキ成長と共にイヌマキの枝穴は拡張され：バトルに

珍奇樹完成：現在の断面想定図

No 8



樹勢旺盛・数百年は大丈夫・伐られない／伐らさない

◎ 初代一豊千代夫妻は捨て児を拾いと名付け養育、晩年は妙心寺の住職湘南和尚に。和尚は義母夫妻への恩義を自然界の樹木に託し、後世に伝えようとイヌマキ(♀)が宿し育てるクスノキで母性？を表現、和尚の念力では・・・と (高知市在住の某長老談)

山内家初代藩主一豊夫婦と湘南和尚について

山内一豊夫婦は一粒種の長女・与祢を近江国長浜の地震（天正14年／1586年）で失う。与祢姫の供養のための妙心寺参りの門前で（家の前とする説も）捨て子を拾い息子同様に育てた。

文禄4年（1595年）頃、拾は一豊の命令で家を離れて出家、京都で修行を積み湘南宗化となる。養父母から土佐国の吸江寺を与えられて住職に。また、京都妙心寺大通院の第2代住持でもあり、朝廷から紫衣の勅許を受けるほどの高僧に。

一豊が慶長10年（1605年）に死去後、見性院は土佐を離れ湘南宗化のいる妙心寺近くに移り住み湘南和尚に再会、余生を京都で過ごす。大通院に居た湘南は、折に触れ見性院を訪ね孝行した。見性院の十七回忌（寛永10年／1633年）に当たり、湘南は京都に見性閣を設けた。そして、義母の恩に報いるため盛大な法事を行った。ちなみに一豊夫婦は京都墓所妙心寺に祀られている。

イヌマキ古木は山内家の家訓・伝統を表現した珍奇樹

一豊公が1,605年、見性院は1,617年死去、拾い児湘南和尚による養父母の年忌法要が行われていた約400年前、高知城天主下段の東南角、通路が交差する場所でイヌマキが誕生した。この場所は、参勤交代で江戸を目指す隊列が大手門から東へ一直線に延び、道中の安全を祈る千代女や家来が見送った場所だったかも。

このイヌマキは順調に生育中だったが、約300年前、三本に分岐した幹の一本は風の被害で折れた。成長は維持されたものの樹幹中心部は腐朽菌で空洞化しながら徐々に根元に達した。更に東に突き出した力枝（一番枝）も当然空洞化し、小動物や塵なども侵入したと思われる。この力枝の空洞にクスノキの種子こどもが紛れ込み発芽したのが約100年前、この偶然の出来事がとんでもない珍事に発展した。

クスノキ種子こどもの発芽後も偶然の珍事は続き水分・養分・太陽光等うまく供給されたため地面に根を下ろした事でクスノキ（枝に変身）に成長できた。

針葉樹イヌマキ（種子こどもが出来る雌木）は、おなかに親（広）と違うクスノキ（針）の子供を宿した、まさに千代さんが捨て子を育てる姿を、自然界が再現した神様の威力そのもの。イヌマキが一番下の力枝跡の空洞でクスノキの種子こどもを拾い育てて約100年、元気に育ち今でも自然界に溶け込み全く違和感はない。更に隣に広葉樹クロガネモチが寄り添い、静かに見守る様子は、土佐のいごっそう達に「おごることなく少し控えめに」と言いたそうな一豊公かも。

山内神社の神様（湘南和尚）が自然界を駆使し、しかも城内から樹木を選び、初代山内家の家族愛や城主の苦労を表現し、長く子々孫々に伝え様とした標本は正に日本一の珍奇樹と言える。400年の年月を生きて伝える貴重な歴史の標本、優しい千代さん家族の絆、他人想いのお手本として何時までも大切に残したい。条件は、唯一つ、私たちが「伐らない・枯らさない」この珍奇樹を守り続ける事。